

第3回 昭島市男女共同参画推進委員会

議 事 要 旨

〔日 時〕 平成24年6月28日（金）18：30～20：30

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議しつ

〔出席者〕

1 委員

金野美奈子委員長、柴田邦臣副委員長、安済文幸委員、石井登志枝委員、加藤教子委員、樽松洋委員、原幸子委員、平野博典委員

2 事務局

佐藤企画政策室長、市川男女共同参画担当主査、多田企画調整担当主事

3 傍聴者 3名

〔配布資料〕

- ・第3回男女共同参画推進委員会 次第
- ・委員会評価基準

〔議事要旨〕

- 1 事務局より、男女共同参画プランの評価基準について説明があった。前回提示した案から、項目及び本文の「目標」という表記を「狙い」に修正し、また、評価の基準を優、良、可の5段階とし、達成状況を％に、達成の目安を点数で表示した。この修正案についてご審議をお願いする。

《質疑応答》

◆評価するに当たり、時間軸のとらえ方が不明。10年間の1年目なら、全体の10%出来ていればよいのか。

このまま順調にいけば達成するだろうと捕らえるのか。【平野委員】

○今回のプランは3回目の計画なので、既に20年分の蓄積がある。1年目で1/10できていればよいのではない。1年目が1/10、2年目が2/10ではなく、10年後にはある程度の達成が出来るように、全体を見て調整して取組んで行くことが重要である。【事務局】

◆そうすると評価がファジーになってしまう。P16のような目標指標があれば難しくはないが、過去からどの程度、出来ているのかが記実されていないのでわからない。曖昧模糊にならざるを得ない。【平野委員】

○それだけで評価が可能となるような指標があるなら、その結果を市民に公表すれば事足りてしまう。残念ながら、そういった指標はないので、どういう状況で進んでいるのか、一定の基準を定め、できる限りの資料をご提示する中、間違っているのか、合っているのか、これが実現へ繋がっているのか

について、委員会で評価をしていただきたい。【事務局】

◆他の委員さんがどのような評価とするのか聞いてみたい。【平野委員】

◆皆さんどうですか。【金野委員長】

◆他の事でもよいか。優の上は秀なのか、優秀ではないのか。秀優良可不可ではなく、5 4 3 2 1 でもよいと思う。【樽松委員】

○5段階評価が一番なじみ安いと考え、また、前回の委員会の議論などを踏まえ、この様な案とした。【事務局】

◆④で達成が81%以上の現状にたいし、その達成の目安が、91点以上となっている。この関連が理解しにくい。【樽松委員】

○確かに、理解しやすさについては、難しい部分もあるが、時間軸との関連で、現状が少し低くても、方向性が合っていればいずれは達成されることとなる。こうした事業は、一定程度高い評価を付けても良いのではないかと。こうした考えからこのような案とした。【事務局】

◆外部には出すのか。【金野委員長】

○委員会の評価結果を取りまとめる中で、評価の基準として示していきたい。【事務局】

◆%と点が異なるのは分かり難かった。【樽松委員】

◆A～Eや1～5はどちらが上かわかりにくいという側面もある。優、良、可ならこうしたことはないで、良いと思う。2つの数字は確かにわかりにくい。達成度の目安を%にした方がよいのではないかと。【柴田福委員長】

◆根拠をもって評価できないのだから。3段階ぐらいのファジーな評価にして、重要なのは、評価後で委員の意見をまとめる方法しかないのでは。【平野委員】

◆それは前回議論すべき事項ではないか。評価シートの作り直しになってしまう。【柴田副委員長】

◆確かに評価は、すごく難しかったが、時間的なこともあり、今更、覆ることは困る。【原委員】

◆進捗状況報告書の情報が十分とはいえない面もある。【柴田副委員長】

◆今から、評価の基準を作り直すのは現実的でないし、量的ではなく、質的な評価を進めてほしい。【金野委員長】

○この基準にこだわることはないで、%と点数を両方残すかどうかについて話し合いをお願いしたい。【事務局】

◆状況だけで、点数は無くてもよいのではないかと。【樽松委員】

◆平野委員からの意見にもあったように、数字にこだわり過ぎるのもどうかと思う。削除した方がよいと思う。こうしたことを念頭に置きつつ、実際の評価を開始するのがよいのではないかと。【柴田副委員長】

◆それでは、今日の予定である7項目分の評価をお願いしたい。【金野委員長】

目標1 1－(1) 人権意識の育成

○事前の質問に回答する。主要事業No.2の「自己表現とコミュニケーション」ですが、自己表現とコミュニケーション能力を磨きながら、良好な人間関係を作るという目的でセミナーを開催している【事務局】

◆そのセミナーの内容と人権についての関連がわからなかったで質問した。直接関係はあるのか。【平

野委員】

○直接的な関連はない。【事務局】

◆なぜ、評価をbにしたのかというような質問は、ここでは意味がないか。【樽松委員】

○企画の担当事業なら回答できるが、他の主管課の事業はすべてについてヒアリングを十分実施できているわけではないので、具体的に回答できないこともある。【事務局】

◆bではなく、aでもよいのでは。【樽松委員】

◆aは十分ということなので、個人の見解で違うが、この程度でaの評価はない。【原委員】

◆実際にこのセミナーに出たが、すごく良かった。だからわかるが、人権に関連するセミナーであったと理解している。

【加藤委員】

◆全市民対象の施策なのに、No.2～4は対象人数が少な過ぎる。これでは狙いが達成できない。No.1だけが全戸配布だが、市職員は1人など、全体的に不特定多数を対象としている事業が少な過ぎる。男女共同参週間に旗でも掲示した方が良いのでは。11万3千人いる市民の参加を増やすような、事業を増やしてほしい。【平野委員】

◆ダイジェスト版の全戸配布は非常によいと思う。ただ配るのではなく、どこまでその内容が浸透したのか、フィードバックがわかるようなもの、例えば「市長の手紙」みたいなものを入れて配ったら、評価もしやすいと思う。【加藤委員】

◆講座自体は継続してやってほしいが、一般市民を対象とするものを増やしてほしい。【平野委員】

○男女共同参画週間には、懸垂幕の掲示などもしている。広報の活用などを図りながら幅広く周知していきたい。【事務局】

◆まとめると、現状、講座についてはよくできている。ただし、もっと多くの市民への周知につながる事業も必要。指標が、男女共同参画基本法についての認知なので、施策による啓発が必要である。このようになるのではないかと。【柴田副委員長】

◆今までの経緯を踏まえて、皆さんの評価意を付けていただきたい。【金野委員長】

◆11万人の市民のうち、50人を教育して、意味があるか。どれだけに届いたか考えると、「可」。施策の達成で考えるとそうなる。【平野委員】

◆トータル的に「可」。No.1は人権尊重の意識の普及がポイントなので、bでは高すぎる、もっと低いのでは。No.2やNo.3は実施に関する項目なので、実施したことでaでもよいのではないかと。【安済委員】

◆事業はよくやっているけど、意識に対する啓発は難しい。No.5の指導室は、学校としてみれば、研修会等参加しているなどよくやっていると思うが、市全体の人権問題として考えると評価は、「可」になる。【石井委員】

◆評価は「良」。フィードバックが欠けているので。【加藤委員】

◆評価は「優」。実施したものについては、評価してあげたい。【樽松委員】

◆実施状況などを見て評価したが、参加人数が少ないので、集客方法についてもっと検討すべきである。こうしたことを考える必要があるのでは、【原委員】

◆事業ごとに評価ポイント、狙いを書きだして施策と合致するか見ている。講座について参加者のレスポンスがほしい。理解できたのかどうか、周りに広げる意識の有無、効果が出ているかどうかをアン

- ケートで調べてほしい。講座、人権の相談などは利用者の満足度をとってほしい。【平野委員】
- 十分とはいえないが、講座等のアンケートは取っている。相談については、取れる範囲で取るという形で検討することは可能。【事務局】
- ◆多数決をとるのは馴染まないで、可3、良1、優2平均をとって、暫定的に良としてはどうか。【柴田副委員長】

目標1 1－(2) 多文化共生の場での男女共同参画の推進

- ◆狙いがはっきりしない。外国人2,000人が本当にほしいのは、生活に関わる支援、役所における言語の対応、言葉の障害で目的が達成できない。男女共同参画の視点に立った事業は外国人にとっては、それ程優先度は高くない。外国人に対するボランティアをうまく活用していない。中国と韓国とフィリピンがほとんどで、3ヶ国語に対応すれば80%～90%はカバーできるので、それを第一に、迅速に対応してほしい。【平野委員】
- 外国人については、現状では窓口の対応が難しい。説明資料は徐々に多言語化が進んでいるが、申請書等で多言語表記が進んでいないのが現実。今後、人権の尊重を図る観点からも、一步一步進めたい。【事務局】
- ◆ ◆外国人に対する施策の評価に対して、評価した当事者が自信なさげである。外国人だからと言うようなところを外して、こういうことをやるのだということで評価にしたらいのでは。あえて評価するなら「可」。【安済委員】
- ◆どこも難しい評価なので、よく分からないなりに素直に判断して、「不可」。【石井委員】
- ◆この分野はよくわからない。他市と比べてどうか知りたい。それを基に評価したい。「可」か「不可」【加藤委員】
- 各市でも中々進んでいないのが状況。HPの多言語化は終了している。一部自動翻訳がうまく行っているとはいえない状況もあるが、一歩前進した子とは事実である。窓口での情報提供や生活全般に係る支援も今後検討する必要がある。【事務局】
- ◆評価としては、「可」。dもあるが内容としてはいいのでは。【樽松委員】
- ◆外国人に対して、サービスが不十分なので「可」としたい。【原委員】
- ◆外人は就労に難航している。外国人ボランティアの活用を是非、実施してほしい。外国人に対する、男女共同参画事業より、外国人には就労支援のほうが重要だ。評価は「良」。【平野委員】
- ◆まとめとしては、努力は認めなくもないが、自身の無さが表れていて、不十分と感じられる。現状は、主管課任せになっている面もあるので、市役所全体の取り組みとして、ボランティアの活用などを図り、窓口の改善などに努める必要がある。といったところではないか。全体の評価は「可」としたい。【柴田副委員長】

目標1 2－(1) 男女共同参画に対する啓発

- ◆機械的に事業を見ると、実施されているということなので、評価は、「優」。【安済委員】
- ◆講座の実施、参加人員がそれなりにいるので、評価は、「優」か「良」。【石井委員】
- ◆評価は、「優」。男女共同参画ルーム「おあしすは」、新しい複合施設に入れると聞いている。素晴らしいことだと思う。将来に向かった展望も是非書いてほしい。【加藤委員】

- ◆総合的に判断し評価は、「優」。No.12(男性向けの講座・学集会の実施)は少し、不明だが。【樽松委員】
- ◆実施できていないものが3件あり、事業が停滞する部分もあるので評価としては、「良」。【原委員】
- ◆講座を開催する場合開けばよいのではない、主催者の意図が理解されたかどうか、内容について、参加人員、男女の比率、将来に対する影響力の行使など、アンケート調査を実施してほしい。やりっぱなしでは困る。ほめたいところが1点ある、「子育て両立パパになろう。」は、実際に育児を実践している人が講師になっている、市民が市民を教えるというこういう取り組みがよい。やりっぱなしではなくフォローが必要である。良【平野委員】
- ◆事業として、しっかり実施が来ている。市民が市民を教えるのは良いことだか、すべてそれでいいというわけでもない。【柴田副委員長】
- ◆拮抗しているが、全体の評価としては、「良」としたい。【金野委員長】
- ◆「おあしす」の設置経緯について、利用状態はどうなっているのか。【平野委員】
- 男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画事業登録団体が、活動の場、ネットワークの拠点として利用している。なお、事前質問は、No.38の事業について頂戴しているので、そこで対応したい。【事務局】

目標1 2-(2) メディアにおける男女平等意識の形成

- ◆評価は、「可」。トータル的に見てできていない。【安済委員】
- ◆内容がはっきりしなくて分かりにくい。きちんとできているものもあるが、職員課の意識には納得できないものがある。評価としては「可」。【石井委員】
- ◆評価は、「可」。できていないものが何点かある。今後の取り組みや計画はないのかと感じた。【加藤委員】
- ◆dが4割もある。「不可」としたい。【樽松委員】
- ◆継続事業なのにできていない。メディア・リテラシーは図書館との協働で進めるべきではと考えるので、評価は「可」。【原委員】
- ◆メディア・リテラシーは、情報発信側の問題ではないか。言論の自由があるので、あまり必要ないのでは。【平野委員】
- ◆今、注目されている施策でもある。メディアなどによるステレオタイプの報道をそのまま受け入れるのではなく、それを聞いて読み解いて見極める力を持たなければならない。大事な項目である。残念ながらこの項目は、あまり充実していないのではないか。図書館との協働が大事だが、そこがプランから抜けているので、提言として考えてもよいのではないか。【柴田副委員長】
- ◆No.26の「男女共同参画の視点による広報や行政資料の発行」について、個人の知識に依存している。人が変わると内容も変わってしまう可能性がある。力量ではなく、今は良いが今後はこれだけではだめ、今後のために統一表現法でマニュアル化してほしい。評価としては「良」【平野委員】
- ◆全体評価は、「可」としたい。推進できていない部分と今後発展する部分がある。【金野委員】

目標1 3-(1) 幼稚園・保育園における男女平等教育・学習の推進

目標1 3-(2) 学校教育の場における男女平等教育・学習の推進

- ◆次の2項目については関連しているので、まとめて評価とコメントをお願いしたい。【金野委員長】

○No.30について、人権教育「女性」について質問を頂戴している。これは、学校の「人権教育プログラム（学校教育編）」の中に人権教育「女性」という9805目があり、人権課題として学校教育の中で男女平等教育を実施している。【事務局】

- ◆ 学校で組織する人権教育推進委員会で、22年度は女性に対する人権意識を高める取り組みをしたことを指している。【石井委員】
- ◆ （１）の評価は、「良」。（２）の評価も「良」。理由は結果がよく見えない。頑張りました的な感がある。その先が見えるといい。【安済委員】
- ◆ （１）の評価は、「良」。（２）の評価も「良」。子どもたちは男女の意識に関係なく生活している。色々取り組んでいる成果が出ているのでは。こうしたことから「良」と判断する。【石井委員】
- ◆ （１）については「可」か「不可」。施策が継続できているのに、保育園や幼稚園は女性の職場になっていて、男女共同参画意識の高揚が図られているのか疑問。（２）は「良」。学校教育は男女平等意識がしっかりと根付いていと感じる。No.34（学校と家庭・地域が連携した男女平等学習の推進）はもう少し延ばせる分野だと思うのでCは残念。【加藤委員】
- ◆ （１）の評価は、「良」。（２）の評価も「良」。No.27～28はよくできている。全体としてよくできているのではないかと。【樽松委員】
- ◆ （１）については「良」。保育指針のポイントが書いてあると評価しやすかった。できれば載せてほしい。（２）は「可」。継続項目であるのに評価が低い。【原委員】
- ◆ （１）の評価は、「可」。（２）の評価も「可」。教育現場は、男女の意識が高いので「優」の評価もできるが、プロセスが問題。いじめの問題など児童・生徒の実態調査が何1つされていない。【平野委員】
- ◆ 教育現場の特性もあるが、個人や機関の努力に依存している部分が多い。もう少し市全体としての取り組みが出来てもいいのではないかと。例えばいじめの問題などきちんと対応すべきこともある。この点は、助言、提言に入れて行きたい。全体としては、「良」としたい。【柴田副委員長】
- ◆ 今後の評価については、委員会としてシステマチックな取り組みを考えて、進めていただきたい。【金野委員長】
- ◆ 次回の委員会開催前に「おあしす」についての資料を出してほしい。【柴田副委員長】

3 その他

- ・ 前回及び前々回の議事要旨の内容を確認し、ホームページの掲載について了承を得る。
- ・ 今後の日程について確認。次回（第4回）は8/9（木）18：30から開催する。また、第5回委員会は9/13（木）、第6回委員会は10/10（水）に決定。
- ・ 次回の委員会では、目標Ⅲの女性の就業支援までを評価する予定とする。

～ 閉会～